

視察報告書

報告者氏名 おだぎり たかし
いぬい えり

1 期日 2025年12月25日（木）
2026年 1月19日（月）

2 視察地及び調査事項

若者の居場所づくりについて

- (1) 十太夫福祉会館
- (2) 南流山福祉会館

3 所感等

(1) 十太夫福祉会館

若者の居場所「ふらっぽ流山」を視察し、委託先のスタッフからお話を聞きしました。

軽やかな音楽が流れる中、フローリングの一室で集う若者が自由にできる空間づくりや、若者の発意を可能な範囲で形にする運営の工夫が見受けられました。

一方、居場所となる一室は、十太夫福祉会館内にあり、かつ小山小学校の敷地内にあることから、施錠された校門前で一度インターフォン越しでのやり取りが求められることから、施設に入るまでのスムーズさの確保が不可欠と思われる。若者が目にでき、フラッとよれるアクセスの確保の重要さ（特に若者目線に立って）について考えさせられました。

また相談できる空間や、なにかあった際のクーリングの別室、時には広い屋内で体を動かせるよう年間スケジュールを組み立てられる他施設との協働もあり得ると思われます。



(2) 南流山福祉会館

若者の居場所「木もれびの森」を視察し、委託先であるNPO法人子ども支援事業リコネクトのスタッフの方にお話をうかがいました。

福祉会館の大広間という古典的な場所で、「中学・高校・大学生年齢の若者が来やすい場所なのだろうか」という疑問がそもそもあったが、イスと机、座布団に座卓などを組み合わせ、また畳であることを生かして、ごろごろできる場所もあるなど、工夫をされていました。また視察させていただいた18時過ぎは、時間的に夕食が必要な子もいると思いましたが、食事のもちこみ、飲食は自由で、寄付などで用意した飲み物やお菓子も提供しているということでした。



私たちがいた1時間弱の間にも、ひとり、またひとりと若者がきていました。ハロウィンやクリスマスなど、参加者の希望を生かしながらイベントをすることもあるそうです。また2階に体育館があるので、並行してスポーツを楽しんだ日もあるということです(体育館は、なかなか予約はとれないですが)。スタッフの方は、精神保健福祉士などの専門資格をもち、困難をかかえる子どもの支援経験もあるとのことでした。

2カ所の市内若者の広場で共通していることは、限られた条件の中で工夫されて、より良い取組みをされている思います。

いっぽう、以下、課題があると思います。

(1) 施設面での改善が不可欠です。

専門常設の部屋がないことから、毎回、会場設営・片付けを運営者が行うことになるのは大変です。また備品置き場のスペースも不十分なために、持運び作業も増えてしまっています。そもそも若者歓迎という雰囲気をつくること事態に苦労をしてしまいます。集う若者の希望に沿った備品（ゲーム等）が増えれば、それ

だけ上記作業も増加するとともに、相談できる空間や、クールダウンできる空間を配置できないことも課題と考えます。

江戸川台東口に計画されている新施設に専門的常設施設の設置を考慮すべきと思います。

（2）Wi-Fi環境の大幅改善が不可欠です。

現代の若者の居場所としては、Wi-Fi環境は決定的です。他部署との連携と工夫が必要と考えます。

（3）周知方法の工夫や会場までのアクセスの確保を若者目線で充実・強化することです。

使い慣れていない若者が福祉社会館へのアクセスすることは非常に困難があると思われます。既存施設を使用・活用する場合は、次世代の人材育成と位置づけを他部署とも共有し、若者の意見を取り入れることが必要と考えます。

また市内では、施設管理者が特別な意図をもっていなくとも、様々形で若者が利活用している施設があります。各施設の管理負担がない形で、机上や壁に若者の居場所を掲示（QRコード）し、必要な時に、一人でもフラッと行ける（つながる）仕組みの構築もあり得ると考えます。

●生涯学習センター1F入口の喫茶室閉店後を活用した自習室

（freeWi-Fiアリ）

・25年10月～26年2月まで、16：30～20：30まで



●生涯学習センター3F市民活動センター内の交流サロン（フリースペース）

（freeWi-Fiアリ）

・常設型、夕方17時まで



（4）資格と経験豊かなスタッフの処遇改善です。

若者一人ひとりにあった支援を提供でき、長期間の信頼関係を必要とする若者に寄り添うためにはスタッフの専門性や継続性が必須です。一方委託内容では限られた日数と時間の勤務で、生活が支えられるとは思えず、今後の継続性はもとより、人材育成すらも支障が出る可能性は否定できません。

（5）「若者」というターゲット設定です。

「若者」と一言で言っても家庭環境や心身的な課題、とりわけ生い立ちや体験内容等千差万別であり、支援の在り方も千差万別です。若者全てをターゲットにした取り組みと同時に、一人ひとり若者の困り感やその深さ、表現の仕方に沿った情報発信、支援体制や専門的な場所の提供へつなげることも必要と考えます。

以上繊々課題もありますが、若者の居場所づくりを大人サイドで提供し、スタートさせた施策が始まったばかりです。今後歩みを止めることなくより良い発展を願っています。